

とねの絆

第 23 号
古河市第 13 地区
発行
令和 7 年 2 月 28 日
とねの絆
広報委員会



第13地区コミュニティ

地区長 鎌仲 英俊

新年あけましておめでとうございませう。昨年は正月の地震、急激な円安、ガソリンや食品の値上げラッシュ、若者の闇バイト犯罪増加、夏から秋にかけての猛暑、9月の能登の豪雨災害、コメ不足と高騰、野菜高騰の話題など暗い話題が多くありましたが、明るい話題は大谷翔平選手の大活躍、夏のパリオリンピックでの日本人の活躍は印象に残っています。

令和7年は巳年、そして昭和百年にあたります。「成長や変革、金運や財運の御利益に恵まれる縁起の良い年」とされています。巳年生まれの人には、①いつも冷静で分別のある判断ができる、②一度決めたことはやり抜く粘り強さがある、③感受性が強い、そういう人が多いというです。皆さまの地域にお住いの巳年の人と仲良くしてみたいかがでしょうか。地域・行政区への関心を高め、行事への参加も増えてくると嬉しいですね。サラリーマンの給料は少しアップしてききましたが物価高に追いついていないです。

考えれば長引くウクライナ紛争、世界的な天候不順、国内では、秋の衆議院議員選挙の結果による政治の不安定化、世界でも、米国のトランプ大統領の動きからの影響を受けて不安定化が生じています。最後に、新しい年が「世の中が明るく、災害も少なく、物価も落ち着いて、夏もあまり暑くない」そんな年になることを願っております。



功労感謝の会

『紅白饅頭配布』

内水海行政区 市村 洋子
今年の暑さは異常で毎日大変な思いで暮らす日々でした。今年もまた、敬老の日。紅白饅頭を頂きまして、ありがとうございます。

砂井新田行政区 佐藤 勝
古河市中心公民館にて、針谷市長から「華のある市、古河の実現に向けて」の説明がありました。未来を目指すまちをつくるための取り組みということで。そのためには、これまでの取り組みから、何をいつ、どこで、だれが、どうして行くのか進めていかなければなりません。そのことから、①これから芽吹かせる取り組みとして、②将来に向けて種まき取り組みをし、次に③華のある都市・古河の実現をしていきたいと思います。市民参加の重要性を知り、生活しやすい都市づくり、そして活気と魅力のある古河市になりますように希望しますとのことでした。

市長と語ろう まちづくり

- 1、SDGs 未来都市
- 2、こどもまんなか社会
- 3、地域経済の好循環の構築と促進
- 4、古河市新公会堂整備
- 5、創業・事業承継の包括的支援

マチノマモリビト 消防団活動

第16分団長 和田 紀彦
第13地区には、主に上砂井、砂井新田、前林を担当する第15分団と、高野、内水海、町水海、北新町を担当する第16分団があります。

行政自治会・コミュニティ推進協議会 合同研修会

町水海行政区 能城 忠雄
2月9日、野本電設工業コスモスプラザにおいて、「地域内協力で住みよい街づくりを」各地の事例から」というテーマで、常磐大学総合政策学部教授砂金祐年氏に講演していただきました。

①自治会・町内会加入率低下の現状と要因、②加入率向上のために必要なこと、③事例報告という順でお話を伺いました。

砂金祐年氏
人々に頼ることがなくなつたこと、産業構造が変化し、地域に依拠した仕事が無くなったことなどがあるとのことでした。絆も煩わしいという風潮も生まれ自治会加入率も低下したのだそうです。しかし、安心・安全で平穏な地域づくりは自治会が担うものであり、自治会加入率を高めていくことが求められているとのことでした。自治会加入率向上のためには、活動の「見える化」が重要であり、そのため「地域コミュニティプラン（地域の現状と将来像を共有し、地域でできる事、できないことを選別する計画）作り」を通して、加入率を高める自治体も出てきているとのことでした。



砂金祐年氏



消防点検式



第16分団

町水海行政区 能城 忠雄
9月8日、とねミドリ館で地域防災勉強会が行われました。冒頭、担当者から6月30日に行われた自家用車による避難訓練の反省が提起されました。そのれに基づいて、具体的にとのうに避難すればいいのかを古河市の石井防災官から指導を受けました。まず、最近の気象状況について、温暖化が進み、海水温の上昇、異常気象が進行しているとのことでした。とねミドリ館の水没の様子をシミュレーションで示していただきました。



マイタイムライン

命を守るためには避難しなく、親戚など知人の家も複数避難先として考えていくことが大切であるとのことでした。ハザードマップからは古河市は河川も南北に走っており、東西の避難は困難であるということがわかりました。

13地区は浸水継続時間も長いところが多いことから避難継続時間を考慮に入れて準備しなければならぬことをマイタイムラインを作成することで気づかされました。

古河市で自家用車で移動する場合、8時間かかることもあり避難開始が急がれるとのことでした。ペットは、同行避難が基本であること、盗難予防のため避難の際には家や自動車、自転車の施錠を忘れずしてほしいとのことでした。

最後に、担当者から、前林行政区は一番に避難しなくてはならない、前林行政区には専用の避難道路も必要ではないかという提案もありました。

関東ド・マンナカ祭り

内水海行政区 金沢 信義
10月12・13日古河市イーエス中央運動公園で第26回古河関東ド・マンナカ祭りが開催されました。

12日は幼稚園児キッズ、サークル会のダンス、中学校、高校の吹奏楽部の演奏が披露されました。サークル会はフラダンス、交際交流協会の二胡演奏も披露されました。衣装・ダンスパフォーマンスも素敵でした。

13日は「民族芸能のつどい」ということで地域に伝わる山車を脇に置き、お囃子の演奏が披露されました。神輿を町内住民が担ぎ、練り歩くことで、絆の深まりが見られました。山車や神輿のデザインや装飾に古くからの伝統文化を感じました。



スポーツフェスタ

KOGA2024

町水海行政区 能城 忠雄
11月4日イーエス中央運動公園でKOGA2024スポーツフェスタが開催されました。以前、行政区のスポーツ推進員として総和地区運動会にかかわったことがありましたが、行政区対抗の運動会であったため

参加者を集めることに苦労した記憶があります。スポーツフェスタは、主催者の発表では一万二千人の参加者があり、イベントも数多く、体験型若男女、多くの方々が参加されていました。競技型のイベントでは参加が難しい身体に障害のある方も進んで参加され、楽しんでる様子も見られました。イベントごとの指導者も名のある方ばかりで上質な体験の機会を得ることができたと思います。ボランティアの方々も地域から多数参加されており、市民総ぐるみのフェスタでした。



マイステージ

町水海行政区 能城 忠雄
2月2日、ユースセンターK1防水ホールにて、「マイステージ」が開催されました。「マイステージ」は総和町の時代から続き、今回で通算36回目を迎える催し物です。今回の参加者は33組あり歌や踊りを披露されました。どの組の歌もよく歌いこまれていて、音程もよく歌いこまれていたのが印象的でした。歌に合わせて衣装も考えられていて、玄人はだしというところば客も手拍子を打ったり、歓声を上げたりしてちよつとしたコンサート会場に紛れ込んだのではありませんかという錯覚に襲われるくらい

ふくしまつり



らい会場の一体感が半端ではありませんでした。市村昭夫さん(内水海行政区)が「漢江」をダンディーに歌われ、落合満さん(高野行政区)が「味噌汁の詩」を着流し姿でしみじみと歌われ、湯本頼子さん(砂井新田)が「おつう(日本のお話)本のお話」を「鶴女房」を抒情感あふれる歌声で歌われ、鎌仲地区長の司会でした。

町水海行政区 能城 忠雄
2月8日、共和電設とねミドリ館の館内と駐車場第3回ふくしまつりが開催されました。館内では、「地域支え講演会」として、ご近所福祉クリエイションの酒井保氏、「ヤングケアラー講演会」として、認定特定非営利活動法人カタリバの和田果樹氏から講演していただきました。昼食をはさんで、午後から映画「こどもしよくどう」の上映が行われました。お二人から、少子高齢化と地域、子どもへの貧困の実態についてお話をいただき、いかに大切である、喫緊の課題である、と理解することができました。外の会場では、40近い協賛団体のもと32のブースが設けられ、手話や点字の体験が行われました。



新4号国道クリーン作戦

北新町行政区長 水町 利郎
1月26日、真冬の時期とはいえない快晴で無風の穏やかな日となりました。この日、第13地区では、町水海・高野・北新町の3行政区の64名の人達が朝9時に集結し、国道新4号バイパスクリーン作戦が実施されました。コロナ禍を経て、昨年は雨で中止となり、久方ぶりに行われたとのことでした。

40分ほどで、回収トラックの荷台に一通りいっぱいになる程度のゴミが集まりました。第13地区の担当は、高野の交差点から塚崎交差点までのおおよそ1kmの区間の沿道のゴミ拾いでしたが、まだ中身の入っていない瓶や缶、ペットボトル、弁当等の容器等が多くあり、さらに今回はタイヤが捨てられていたようです。

新4号バイパスは東北道と並行し、埼玉から宇都宮方面に行くには、通行料もかからず高速で走れるので、長距離トラックなどの交通量が非常に多い道路であり、地域に愛着のある人も少なく、モラルのない人は信号待ち等の際に窓からゴミを投げ捨てることも多いと思われます。私自身も、クリーン作戦などのイベントの時だけでなく普段からきれいな街、住みやすい街を持続するために今後も散歩などの際には見つけたゴミを拾ってほしいと思います。



三島神社例祭

町水海行政区 能城 忠雄



三島神社
社はかつて子供神輿が町内を練り歩き、例祭当日には屋台が境内をひしめていたとのことでした。水海小学校の子供たちも校外学習で見学に来ていたことでした。



れ、地域の人々の安全平癒を祈る場所となっています。秋の例祭で参拝者にふるまわれる甘酒とけんちん汁はおいしいですよ。

○一年間の三島神社神事一覧
・4月14日 春季例祭
・7月7日 小枝切り
・11月10日 秋季例祭
・1月14日 元朝参り
・1月14日 どんと焼き

高野地蔵尊祭り

高野行政区長 吉沼 明夫
高野行政区では8月23・24日の両日、恒例の地蔵尊祭りが開催されました。

今年の祭りでは4年間のプランクがあつた盆踊りが行われるとあって、11店の露店が並び、大勢の子供達に大人も入り交じ



って人だかりができ、櫓の周りには踊りの輪ができ、すぐに二重になりました。大勢の来場者も大人も子供も皆笑顔でまるでこの時を待っていたかのような



賑やかさでした。高野の地蔵尊祭り・盆踊り大会の祭り囃子は大人と交代で子供達も歌い、大太鼓や小太鼓、樽をたたき、低学年の子供たちは櫓下の敷で座布団に座って、ばちでつつみを叩きます。勿論女子は浴衣、男子は祭りはつぽの正装です。4年間途切れたこの子供達のお囃子が本当に復活できたのか、多少の心配もありましたが、10日間の猛練習が見事結果、大勢の見物客から大きな歓声を頂いていました。天岩戸より顔を出した天照大神もニコリと微笑んだことでしょう。

編集後記

江戸時代には「稼ぎ(お金を得るための仕事)」と務め(地域コミュニティのための仕事)」という考えが常識だったそうです。「とねの絆」を作成する中で、今も変わらず、13地区の住民の方々が、「務め」も大切にされている姿を知ることができました。この地域が平穏に保たれている理由であると実感しました。

また、「とねの絆」の発行にご協力頂いた方々に、この場をお借りして、お礼を申し上げます。13地区コミュニティ広報委員長 町水海行政区 能城 忠雄